

# ミクロ経済学 演習2020 第8回 (June/29)

---

・2019年6月13～15日は私は四国の愛媛県松山市というところに出張してました。



## 本日のコンテンツ

1 (前半) : 「生産者の理論」のお話のこれまでのざっと復習

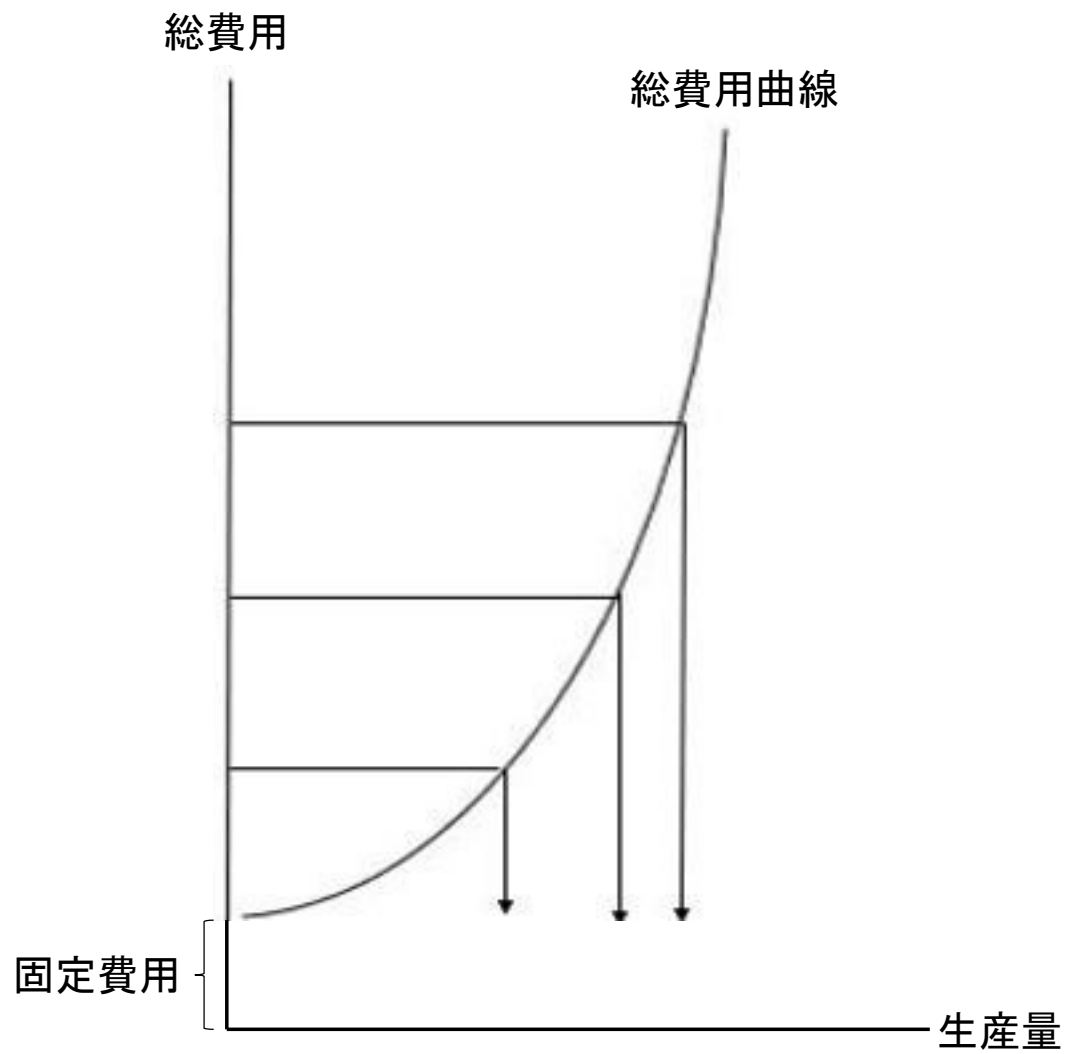
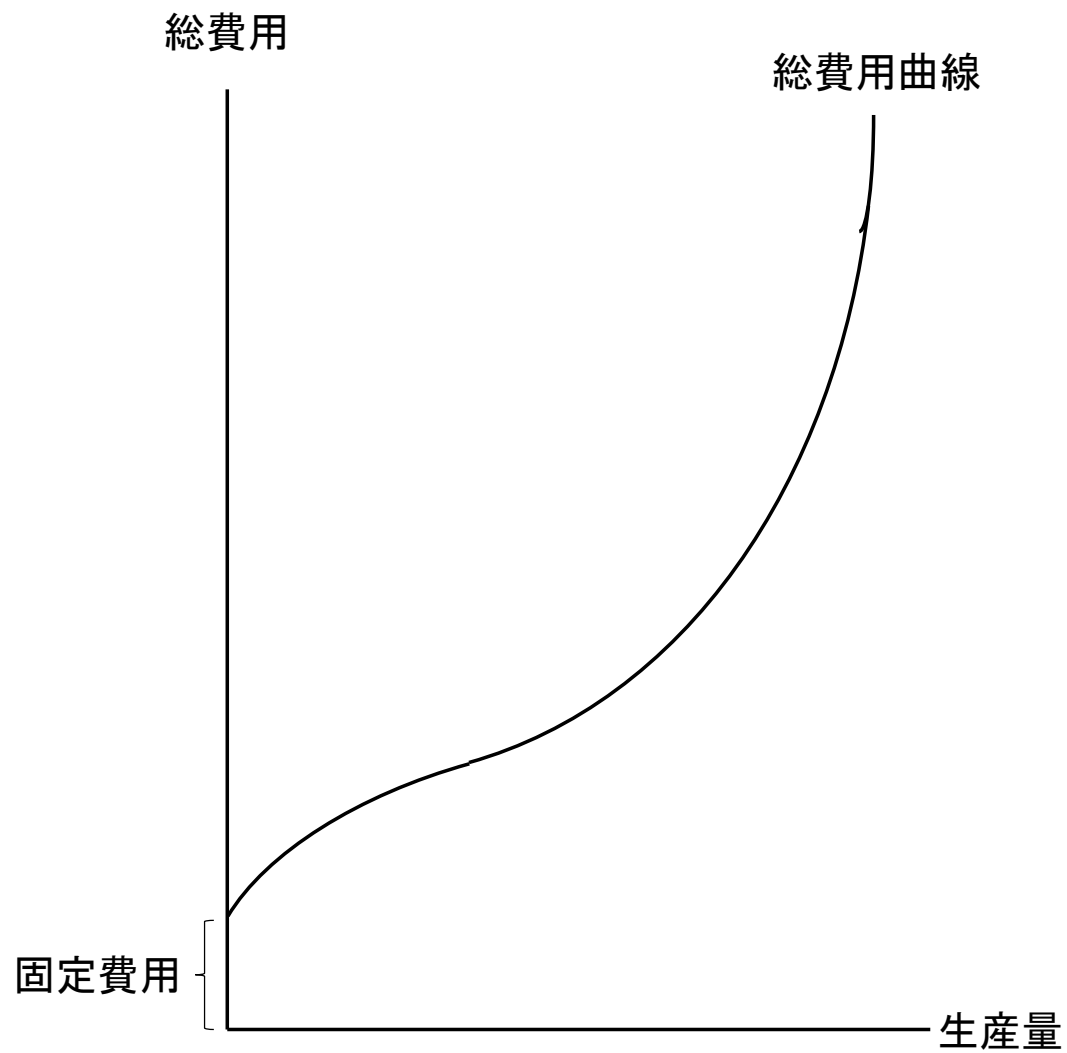
### 2. 限界費用の概念

限界費用とはどのようなものか？

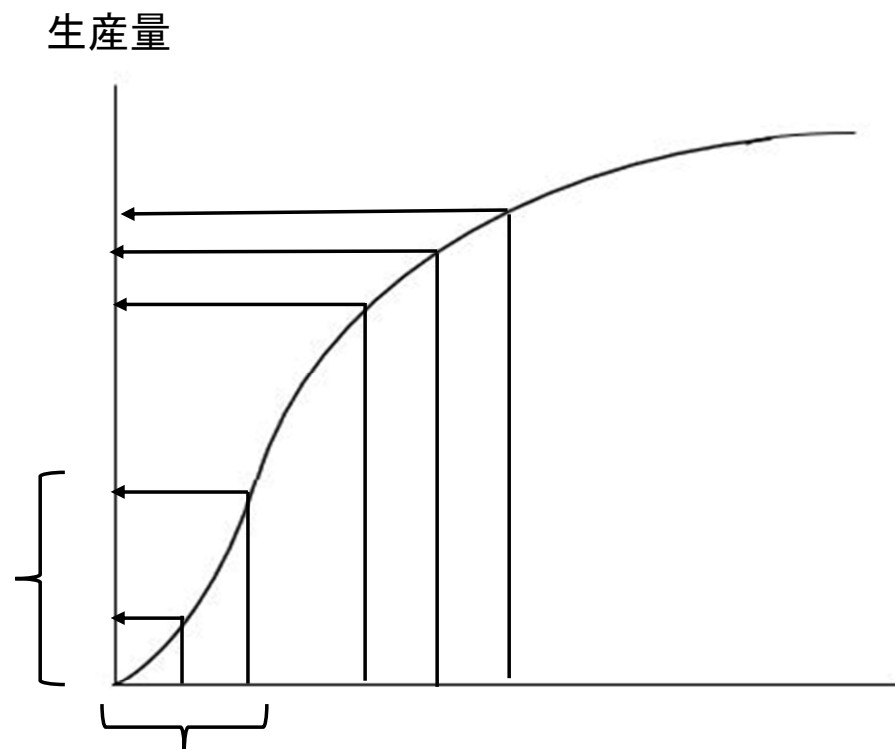
### 3. 限界費用の求め方

限界費用はどのようにすればその大きさが分かるか？

「ちょっと待った。ミクロ経済学の授業でよく見る総費用曲線はこんな形なんですけど！」



もとの生産関数の切り口が、こんな形だった、という暗黙の想定が、ある！



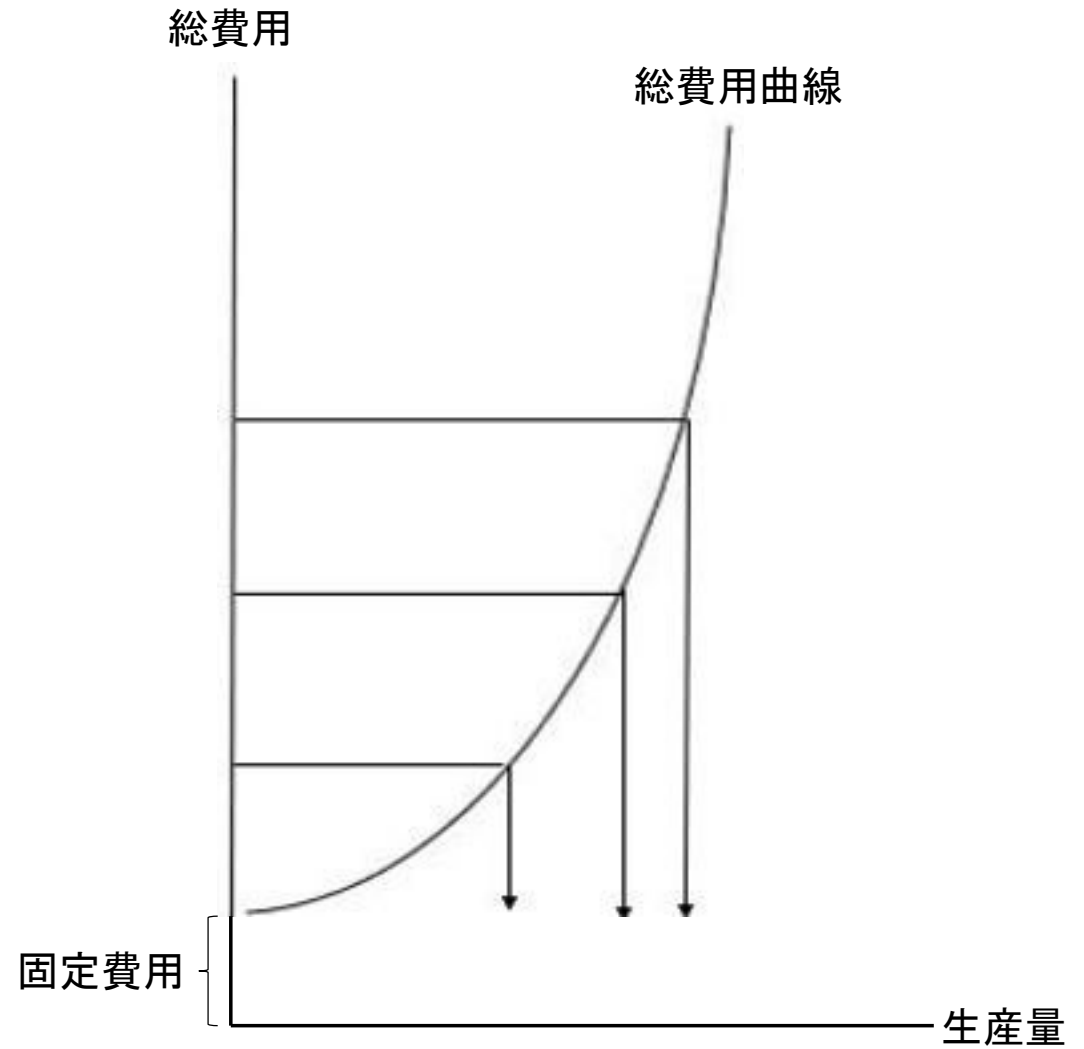
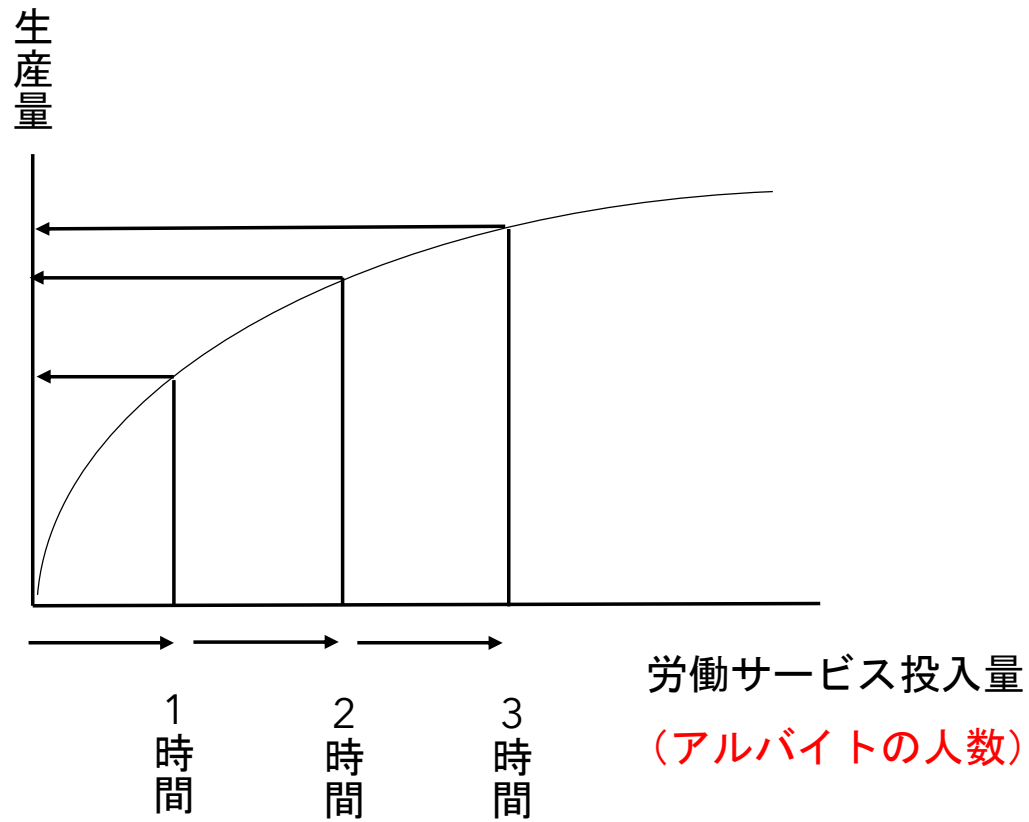
けど、（バイトの数と生産量が）ある程度以上になると、あとはバイトが増えても生産量の伸びは頭打ち的になっちゃうよね。。

労働サービス投入量  
(アルバイトの量)

生産というのは、最初のうち（一人で仕事しているとき）は助っ人がもう一人来てくれると一気に生産が増える（2倍以上にぐっと伸びる）よね。

ということで、生産関数の切り口の形がこんなだと・・・

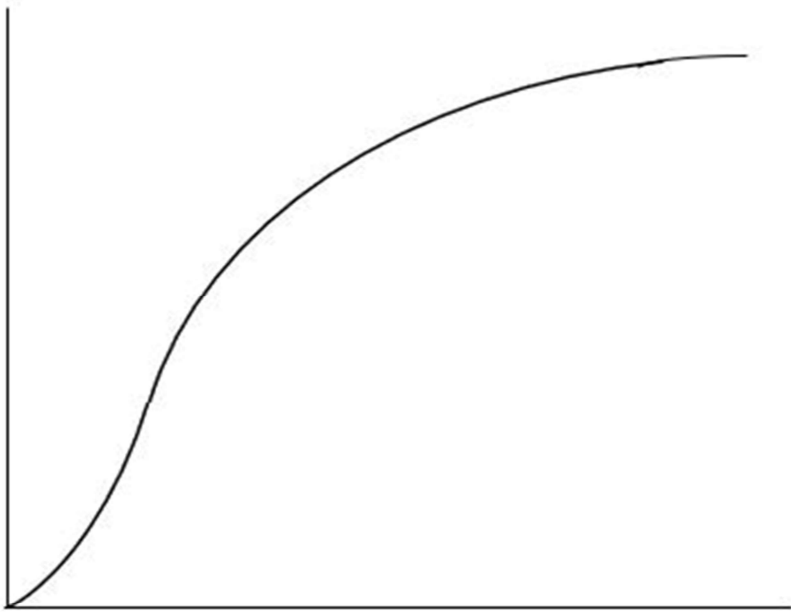
総費用曲線はこんなふうになる。。。



ということで、生産関数の切り口の形がこんなだと・・・

総費用曲線はこんなふうになる。。。

生産量



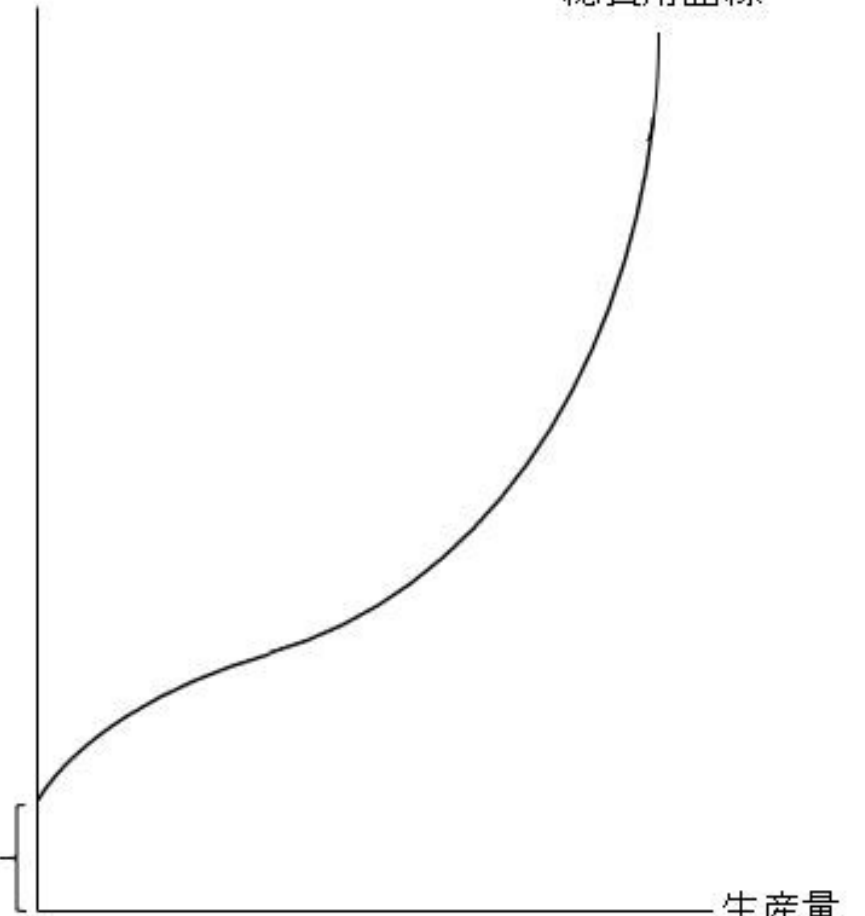
労働サービス投入量  
(アルバイトの量)

総費用

総費用曲線

固定費用

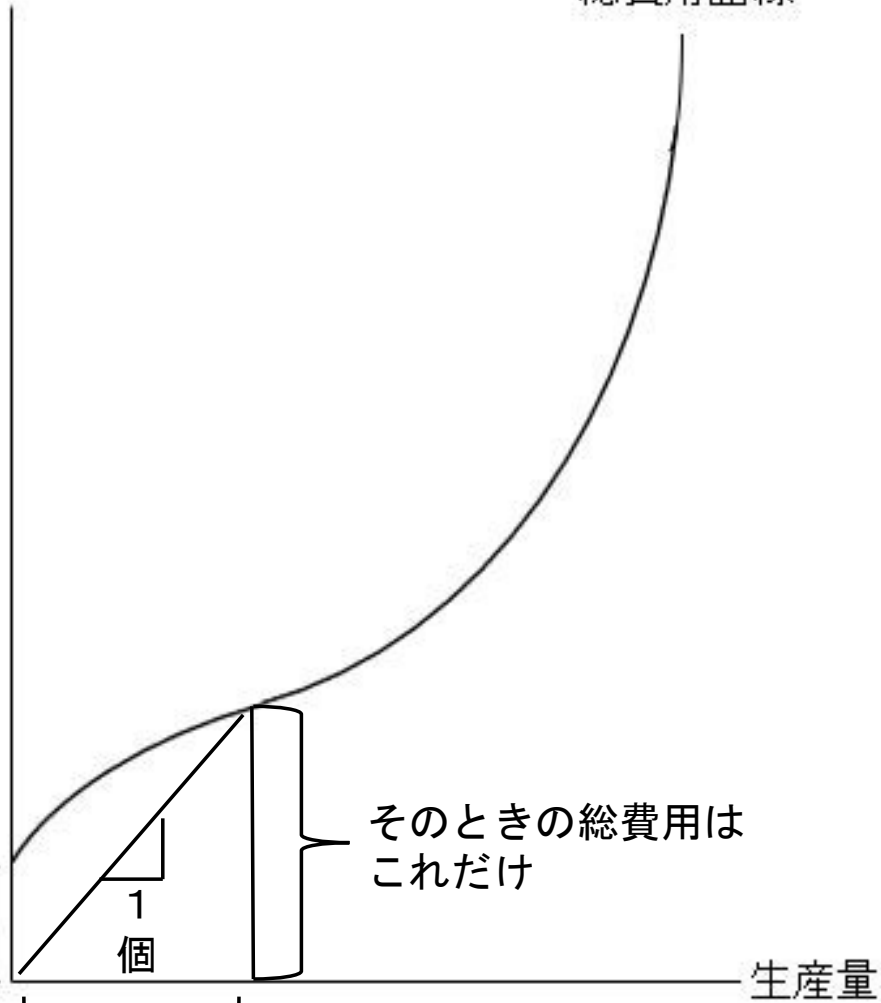
生産量



総費用

平均費用

総費用曲線



そのときの総費用は  
これだけ

1  
個

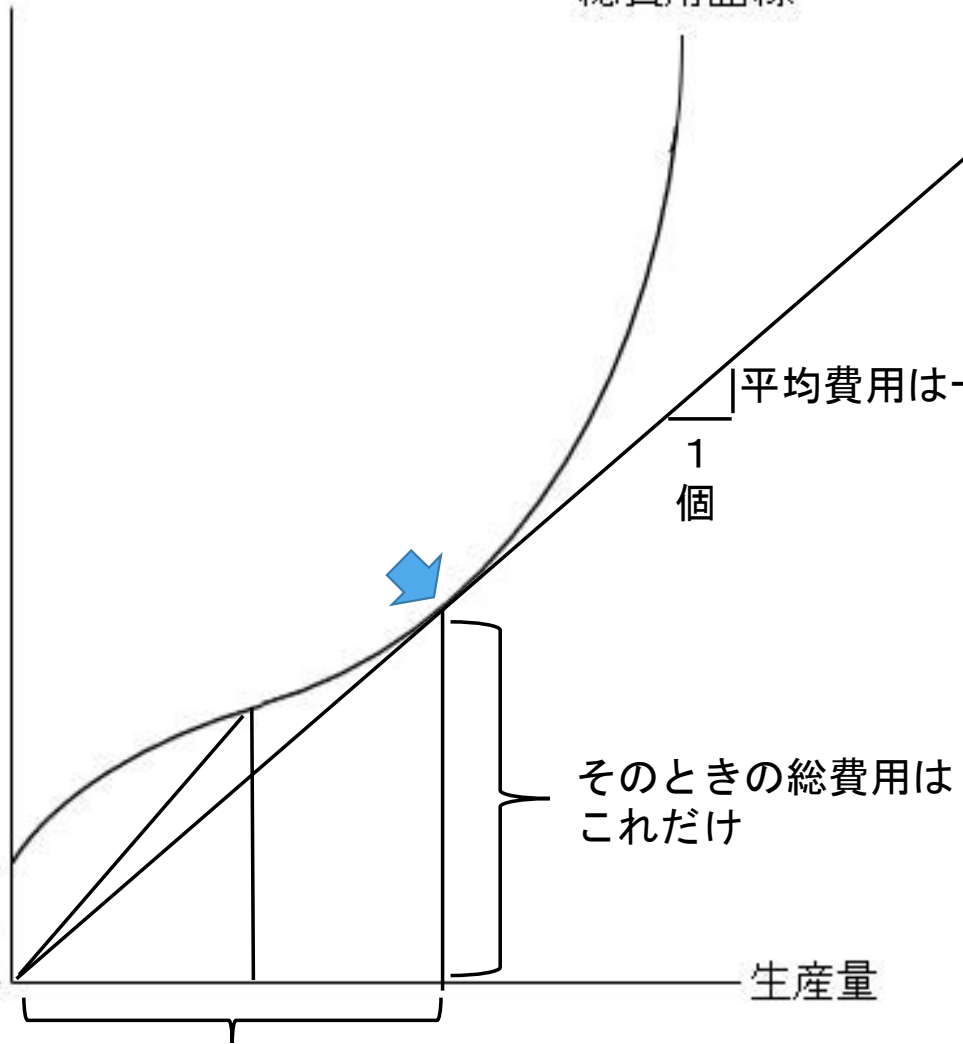
生産量

これだけ作っているとき

総費用

平均費用

総費用曲線



平均費用が一番安く作れることになる

1  
個

そのときの総費用は  
これだけ

生産量

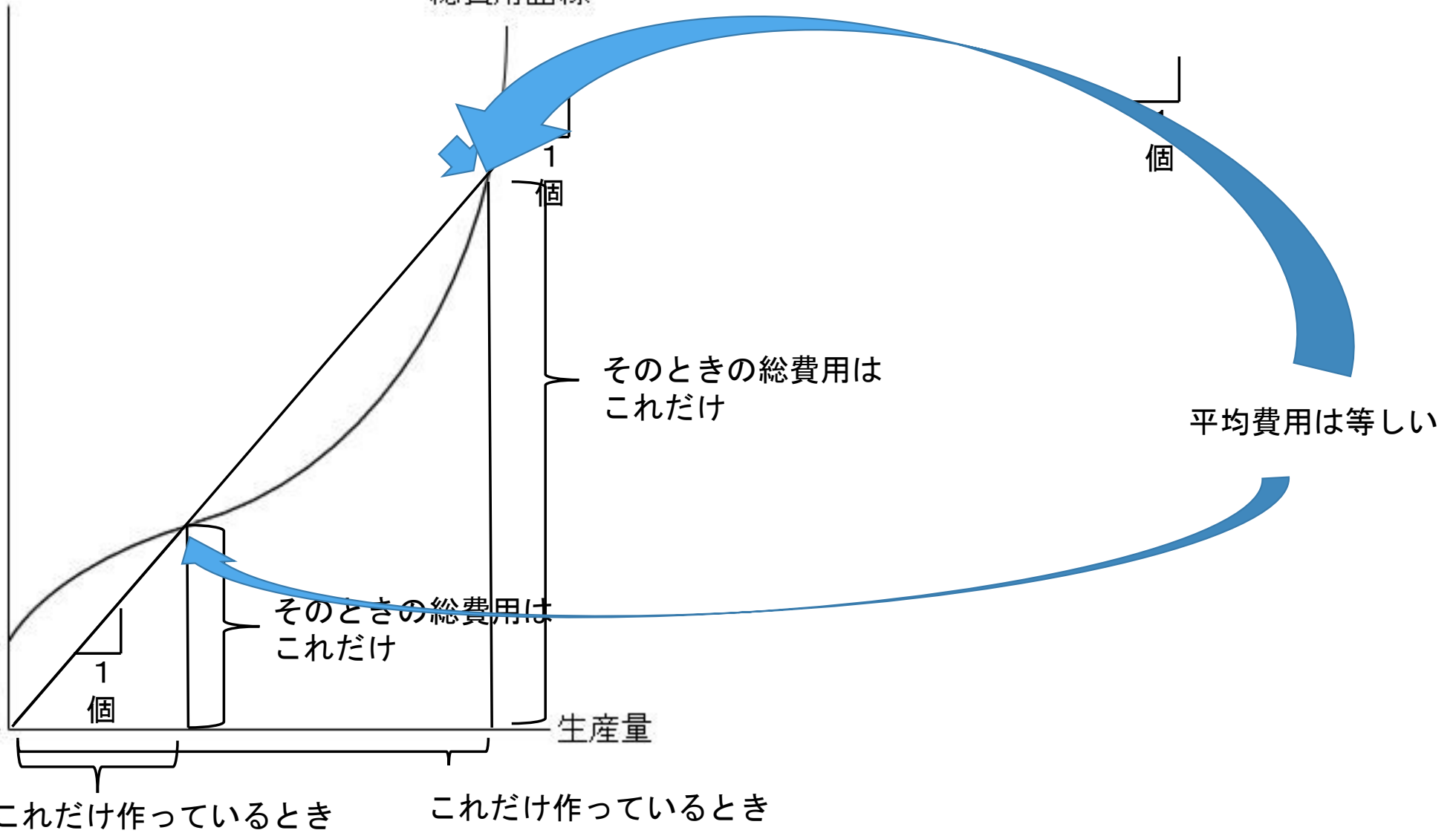
これだけ作っているとき

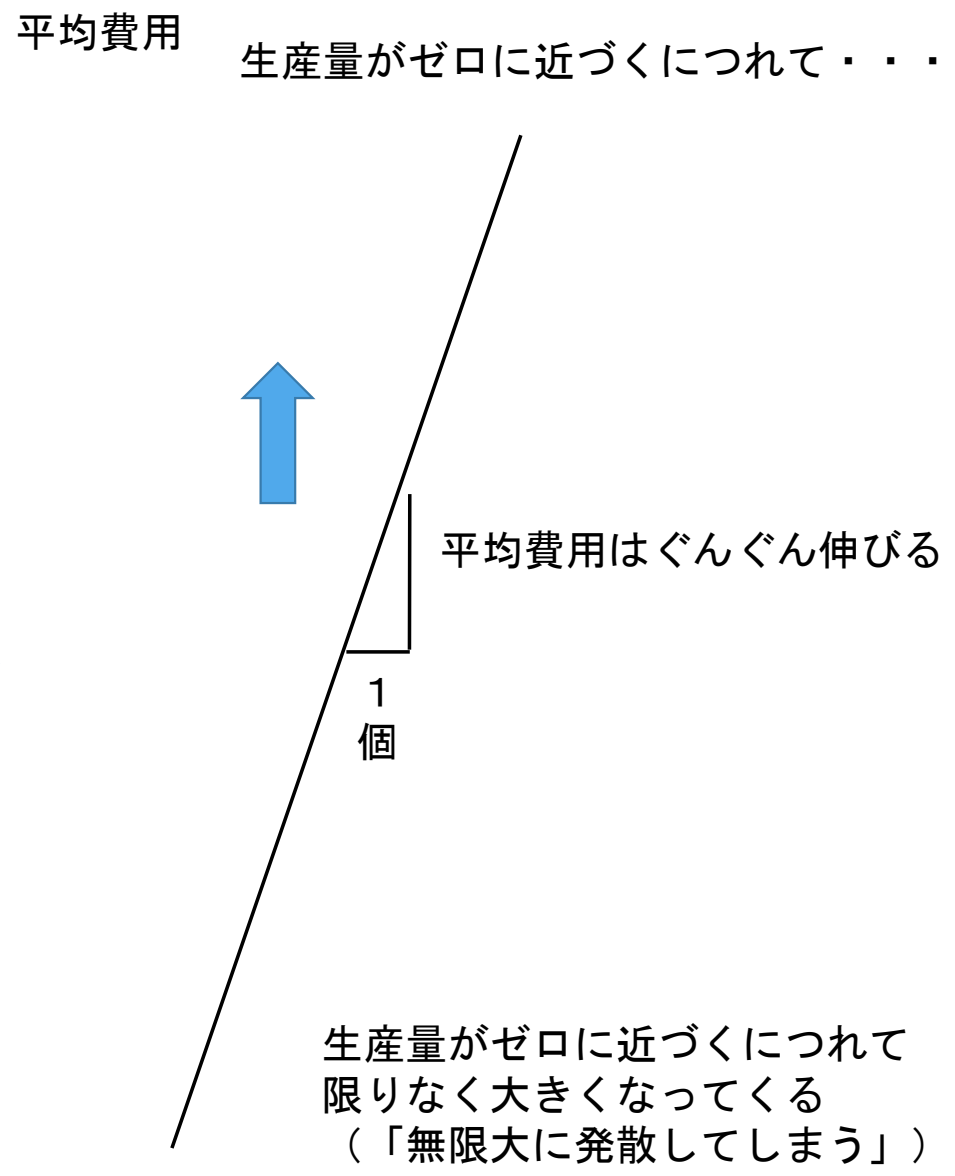
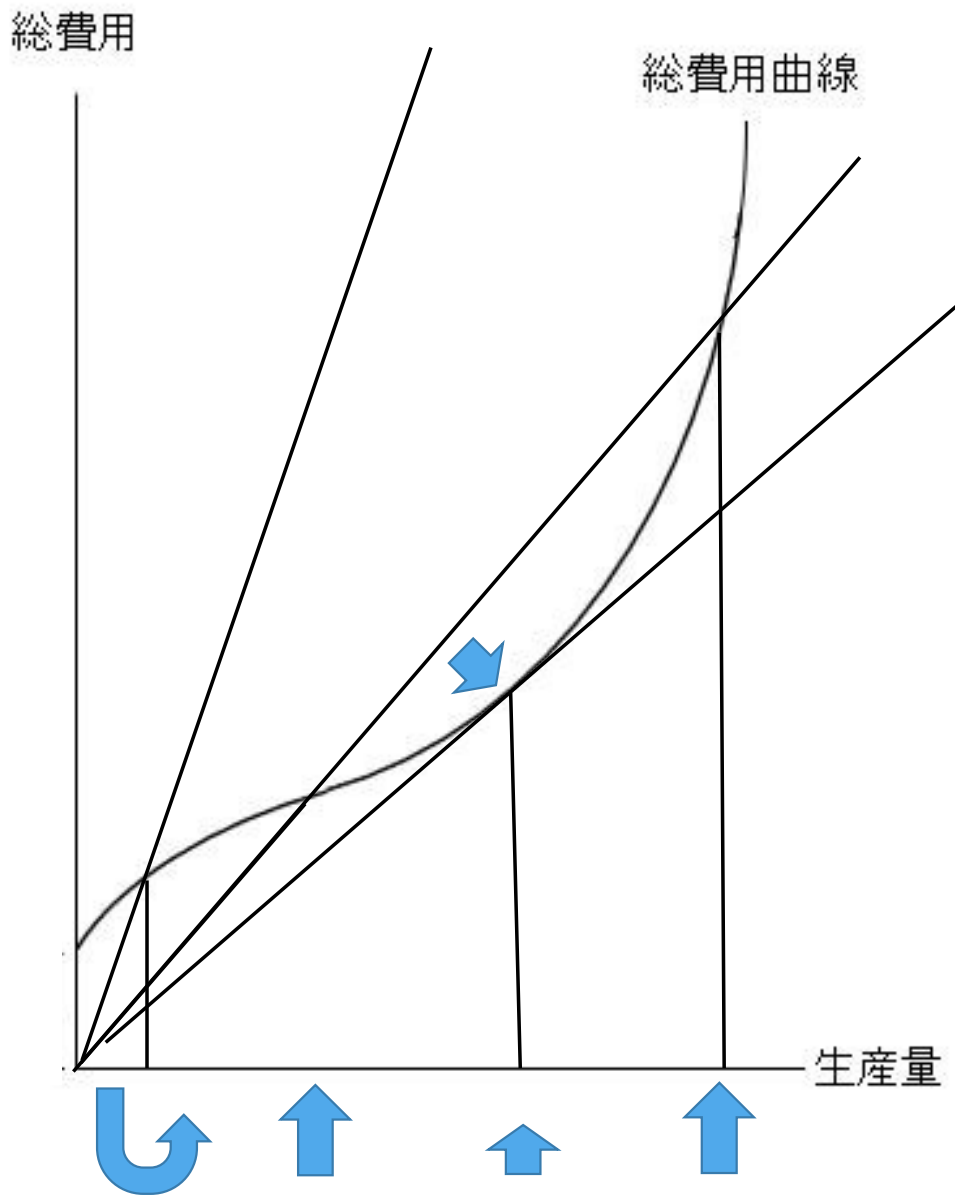


総費用

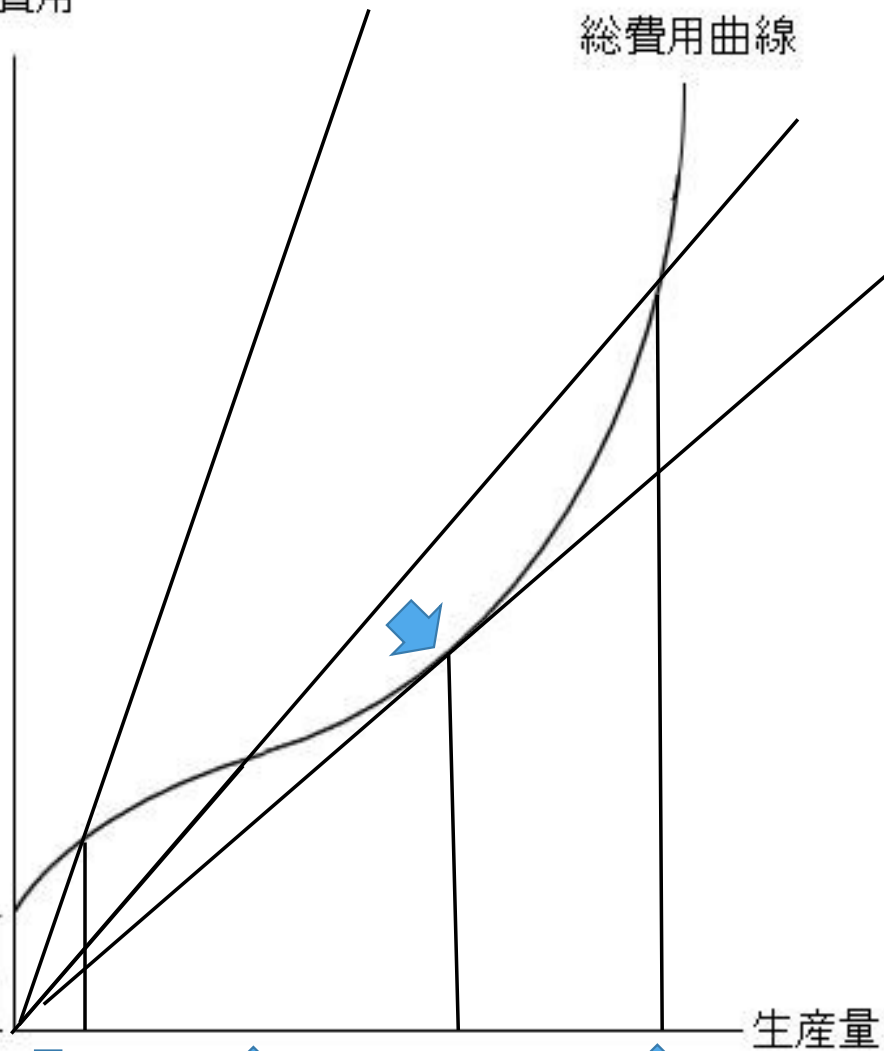
平均費用

総費用曲線

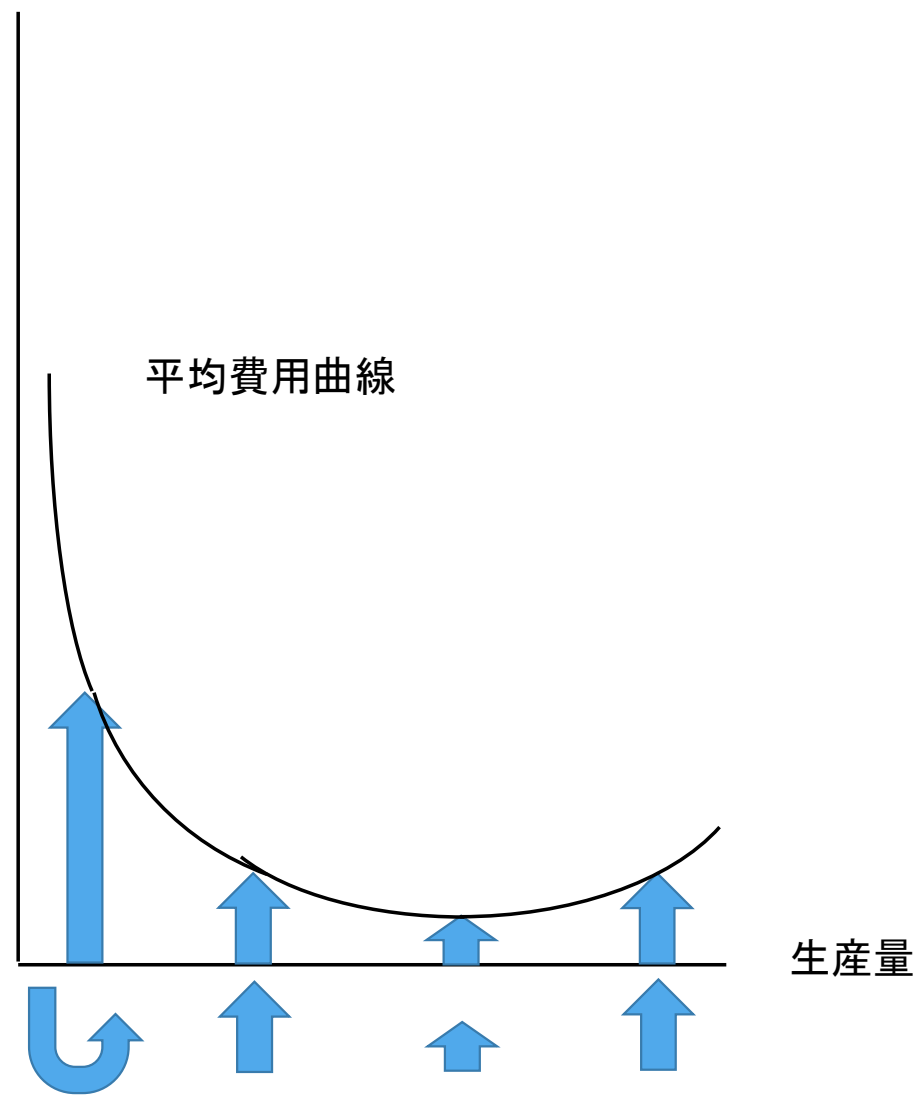




總費用



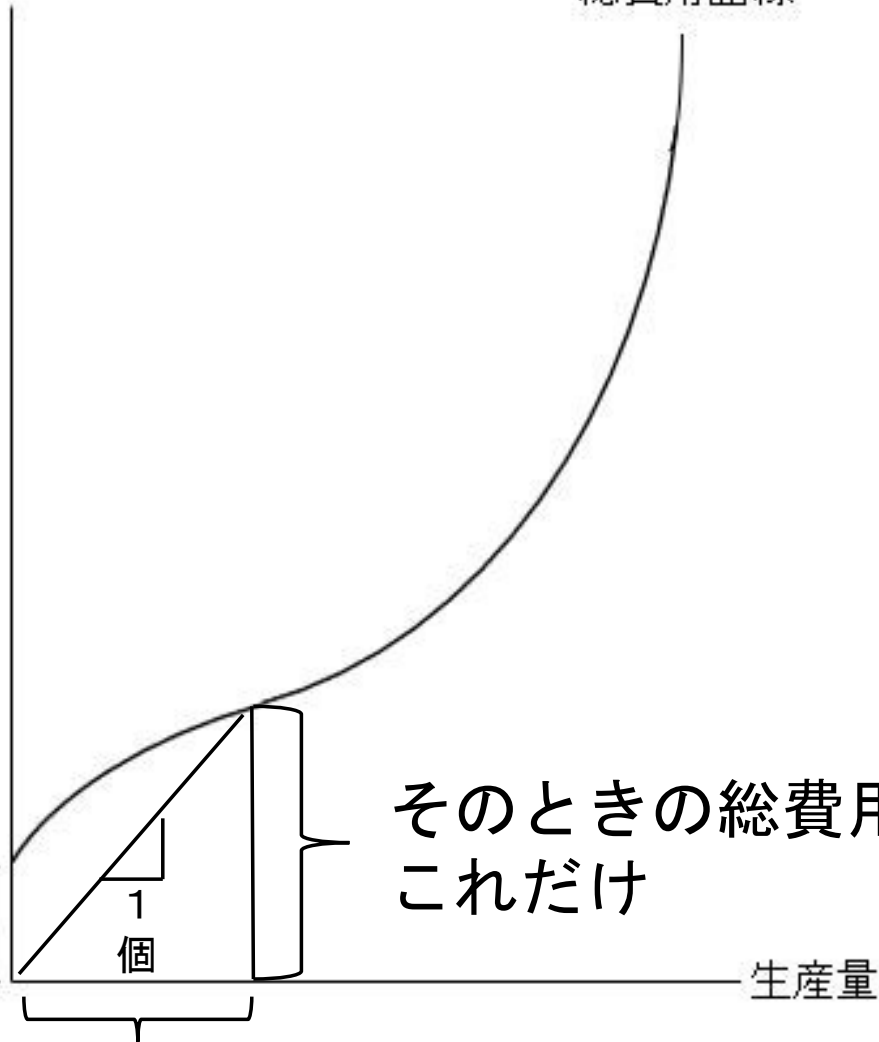
平均費用



総費用

総費用曲線

(ある量生産しているときの)  
限界費用



そのときの総費用は  
これだけ

生産量

毎日この量だけつくっていたような

総費用

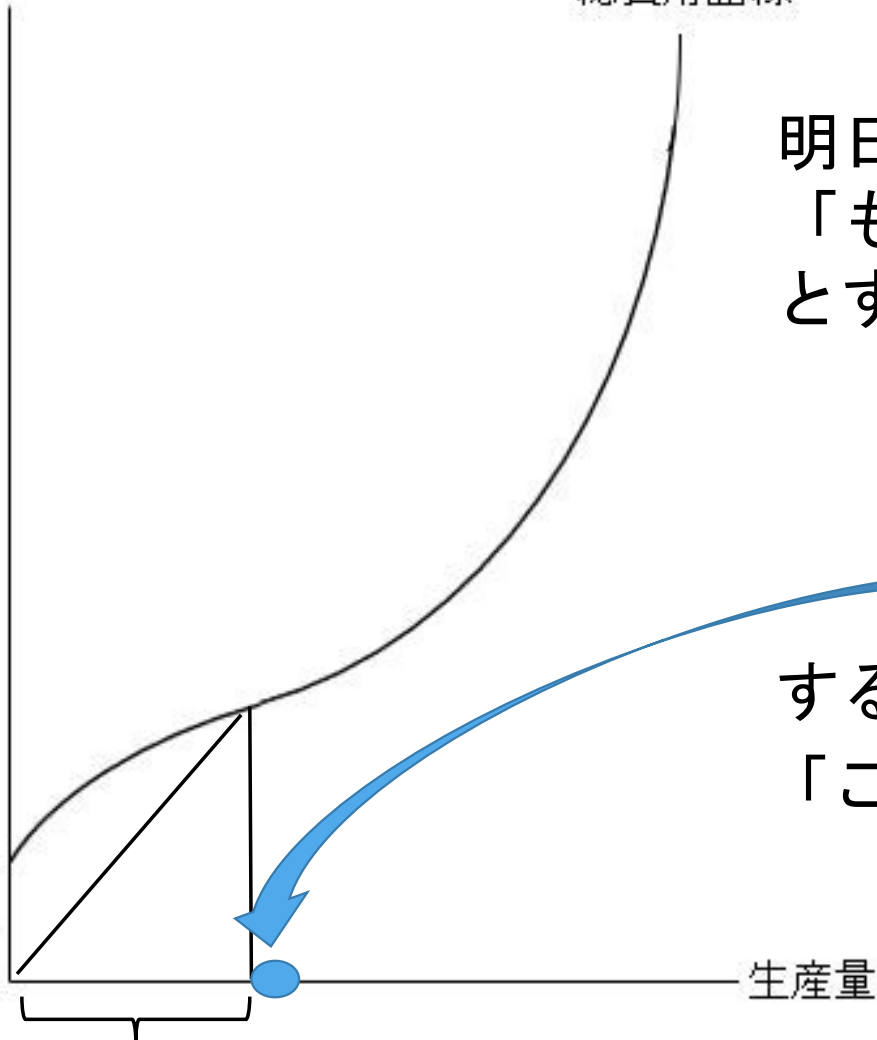
総費用曲線

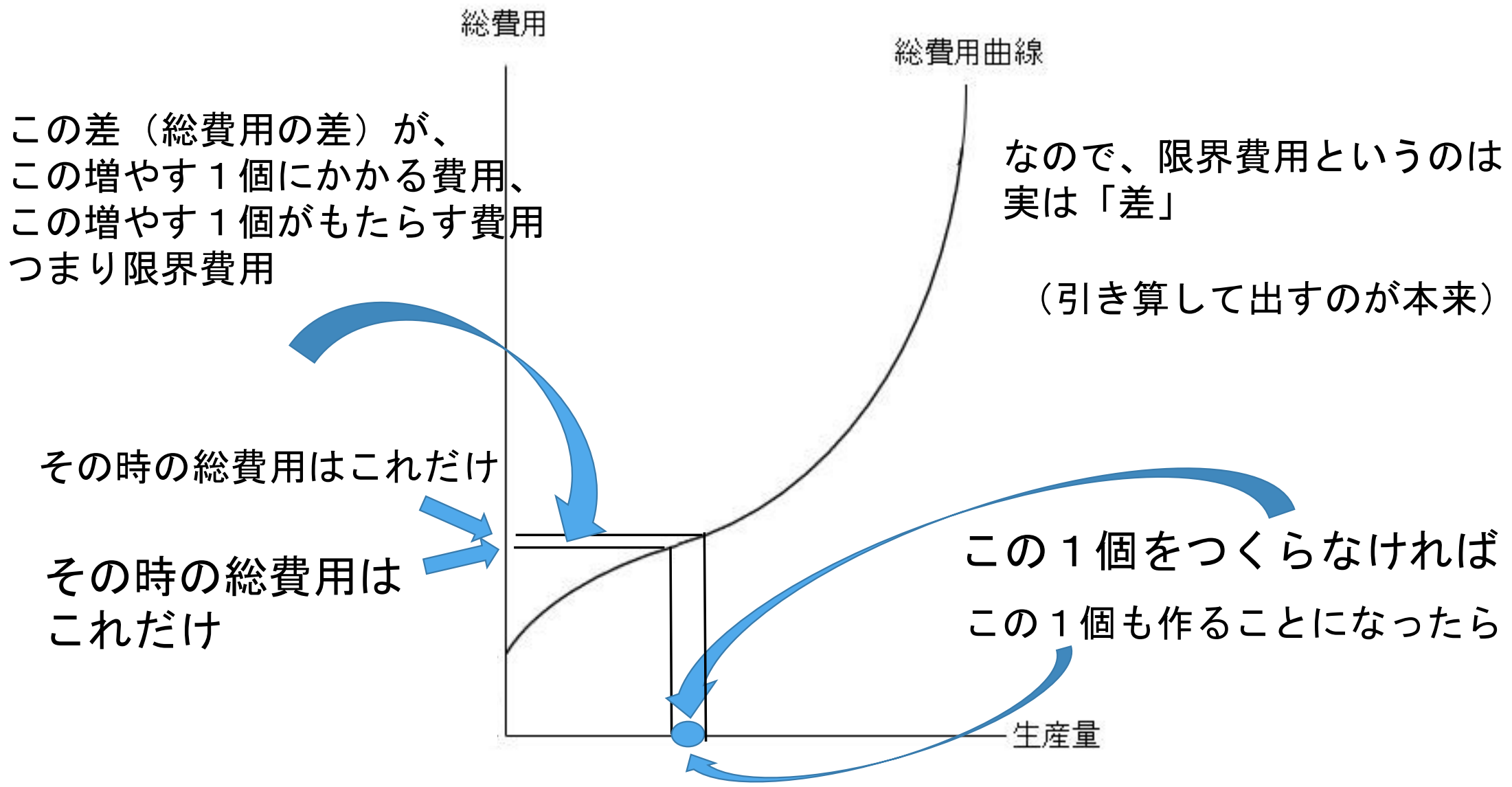
明日から  
「もう1個、余分に作ることにした」とする。

すると、「この1個に」いくらかかるか。  
「この1個が、どれだけ資源を食うか」  
それが、限界費用。

つまり、**増えるこの1個が**  
というのが限界費用。

生産量  
毎日この量だけつくっていたような





総費用

総費用曲線

1  
個

1  
個

総費用曲線の傾き  
(横に1行ったら  
いくら高くなるか)  
を測れば

それはちょうど限界費用の大きさ  
になっているじゃないか！

ということから「限界費用とは  
総費用曲線の傾きである」と  
書いてある教科書もある。

1  
個

生産量

けれど限界費用とは本当は  
「差」(引き算)

